

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	理事長 松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	私たちは生協人として利用者の満足向上のために常に利用者の立場で考え、誠実に行動します。事業所では、生協福祉の理念「あなたらしさいつまでも」を実現するために、10の基本ケアを実践・推進し、利用者ができる限り自分の力を発揮しながら自分らしく生活できるように応援していきます。そのために、本人と家族の思いに沿えるよう交流を深め、信頼関係の構築に努めます。また、地域社会からも信頼される事業所を目指し、地域とのつながりを大切にします。
事業所名	小規模多機能ホーム 敦賀きらめきハウス	管理者	松見 静男		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人			4人		12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・ミーティングを開く時間を確保して、新規利用者等の情報共有を速やかに行なう。	・利用前にミーティングを行いアセスメントをもとに支援方針を検討、確認しサービス提供するスタイルが定着化し初期段階で本人の思いをくみ取ることができている。 ・利用者主体ではなく業務主体のプランになってしまうことがある。利用開始前の担当者会議には、参加できていない介護職員もいる。	毎日ミーティングができていてすごい。分かっているけど普通は時間の確保が難しい。ケア会議は別で行っているのか。	・利用開始前の担当者会議には、担当の介護職員ができる限り参加する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・環境整備を徹底し清潔で整った状態を維持して、利用者や家族、見学者に居心地の良い空間と常にかけてもらえるようにする。	・清潔な環境保持は継続でき、利用者さんや来訪者に心地よい空間づくりに努めることができた。 ・感染症対策も継続実施し、感染症等の蔓延を防止することができた。 ・365日、室内の換気を朝、昼、晩行い、適切な湿度、温度を保つことができた。	・いつも綺麗。季節ごとの展示物や利用者の作品等がいたるところにあり、温かい雰囲気である。挨拶も明るく気持ちいい。 ・利用者さんの顔や雰囲気が明るいことが印象的。自分も高齢になったらこういう所でお世話になればと思う。	・環境整備を徹底し清潔で整った状態を維持して、利用者や家族、見学者に居心地の良い空間と常にかけてもらえるようにする（継続）。
C. 事業所と地域のかかわり	・6月に開設予定のサービス付き高齢者向け住宅の広報に合わせ、地域の方がより足を運びやすい環境づくり、事業所づくりを目指す。菜園スペースやサ高住内のコミュニティスペースでも入居者と住民、小規模の利用者様が垣根なく交流を持てるイベント等を企画していく。	・地域の保育園や小中学校や各ボランティアとの交流、介護やすらぎカフェ、福祉委員会、医療機関や関係事業所との連携は継続して図ることができている。 ・付き添い職員の不足から、地域の活動やイベントに参加できるような支援が十分にできていない。どうすればもっと地域の方と協力できるか分からない職員もいるのが現実である。	・サ高住ができて、地域の住民や教育機関、ボランティア、定例のビュッフェ等のイベントの開催で、地域との交流や各部門の利用者同士の交流も図れているように見れとれるので、いいことだと思う。これからも益々の進化を期待する。	・利用者本人の「地域とのつながり」に対する希望を把握し、希望される方への具体的なサポートを行う。地域行事には事前にシフト調整を行い十分な体制で臨む。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が、その人の住んでいる地域での行事が開催された時には、参加できるよう支援する（継続）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との日頃の会話やアセスメント情報、日々のミーティングなどで、利用者本人の生活スタイルや人間関係について理解を深めることができています。</li> <li>・自宅の中に入ってその方の生活をつぶさに見る機会がないため、現在の生活の現状を把握・理解できないこともある。</li> <li>・地域の行事（サロン、敬老会、食事会等）への参加の付き添いが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の地域との交流にはいろんな形で取り組んでいると思う。各利用者がお住まいの地域イベントに参加する支援には継続してチャレンジしていただきたい。</li> <li>・以前の暮らし方については・事業所でアセスメントしたことが把握でき事業所内で共通認識を持てるようにすれば良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議には担当介護職員が利用開始時期から参加する。利用時だけでなく、更新されていくアセスメント情報（ご本人のこれまでの暮らしや歴史）を常に共有していく。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の計画(運営推進会議にて、地域での高齢者の困りごとを把握し事業所内でも情報を共有しておく。相談が必要な事例は会議にて対応を検討する。)を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者、ケアマネジャー、介護リーダーについては定期出席できた。利用者、家族、地域、関係事業所の声を共有し、サービス提供に都度反映することができた。</li> <li>・体制上現場から介護職員が抜けることが難しく、（介護リーダー等）特定の職員しか参加できず、意見を言うことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の気になる高齢者について気軽に話を出したり相談できたりできているので助かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員も順番に運営推進会議に参加できるよう、年間の参加予定表の作成・運用と、勤務表作成時点での人員配置を行う。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の防災訓練以外の不審者対策（不審者情報が流れた時は、近隣の職員に連絡するとともに送迎中の職員にも注意を促す）等も計画し実施する。（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練、災害時の避難訓練は実施できたが、地域の方には参加いただけなかった。前年度まで実施できていなかった不審者対応の訓練は警察署と連携し3/4に実施できた。</li> <li>・リスク委員会が中心となり、各利用者がお住まいの地域のハザードマップのチェックや災害に対する注意喚起と情報共有は年間を通して行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民として防災訓練に参加したことがない。今後できたらと思う。事業所の防災計画・内容は目にしたことがないので分からない。</li> <li>・何か起きた時にはお互いに助け合うためにも、計画内容をお互いに確認し知っておくことは重要だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事に備えた防災訓練を定期的実施し、地域住民にも参加していただく。防災計画についても地域の方に知っていただく。</li> </ul>